

第 1 学年 国語科学習指導案

日 時 平成 26 年 9 月 12 日 (金) 5 校時
 児 童 女子 6 名 計 6 名
 指導者 名 飯 亮 子

- 1 単元名 ばめんのようすをかんがえて、たのしいげきをしよう
 学習材 「くじらぐも」(光村図書 1 年下)

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「登場人物の様子を想像したり、言葉のリズムを楽しんだりしながら、劇作りをすること」を位置づける。場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながらセリフを考えたり、声色、イントネーション、表情、動作などを工夫したりすることで、「登場人物の行動を想像を広げながら読む」ことができるようになる。また、場面や登場人物の気持ちに合った音読の仕方を考え、工夫して表現することで、「語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読すること」ができるようになる。

3 学習指導要領と言語活動との関連

第 1 学年	音読	文学的な文章の解釈	自分の考えの形成及び交流		目的に応じた読書
	ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読すること。	ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。	オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。	カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。
イ 物語の読み聞かせを聞いたたり、物語を演じたりすること。		場面の様子を想像しながら劇をつくる。			
		声の大きさや、速さを変えて、リズムよく音読する。	子どもたちの行動に着目して、その時の気持ちや動きを想像しながら吹き出しに書き、劇の中で表現する。	△	△

4 単元について

(1) 子どもについて

子どもたちはこれまでに、学習材「はなのみち」で挿絵と文の両方から内容を読み取っていく学習を、「おむすびころりん」「おおきなかぶ」では昔話や民話を想像を広げながら楽しく読む学習をしてきた。読みの方法としては、場面ごとに登場人物のしたことや気持ちを考えて想像を広げること、登場人物の気持ちを吹き出しに書くこと、言葉のリズムや強弱に気をつけて音読したり、動作化したりする経験をしている。それによって、場面や気持ちに合った音読の仕方を工夫しようとする姿が見られるようになってきている。しかし、叙述をもとに想像を広げる力はまだ不十分で、発言力のある子どもの考えに偏ることが多い。そこで、本単元では読み取ったことを劇で表現する活動を行い、互いの音読を聞き合ったり、動きを確かめ合ったりすることで、叙述に基づいて豊かに想像する力をつけていきたいと考える。

本学級は 6 人と少ない人数ではあるが、様々な学び合いの形式を学ばせるため、ペア学習やグループ学習(3 人二組)も取り入れている。そうすることで相手意識をもつことができるようになり、しっかり聞く習慣も身につけはじめている。

(2) 学習材について

本学習材は、体育の時間に校庭で体操をしていた1年生の子どもたちの前に、雲のくじらが現れるところからお話が始まる。子どもたちとくじらぐもは、一緒に体操をしたり、呼び合ったりする。そして、「ここへ、おいでよう」というくじらぐもの言葉に誘われ、子どもたちはくじらぐもに飛び乗り、一緒に大空を旅するというお話である。現実の世界から空想の世界へという巧みなストーリーの中で、子どもたちは登場人物と一緒に大空を旅する楽しさを味わうことのできる作品である。文章は、五つの場面で構成されている。どの場面も生き生きとした挿絵が描かれ、文と挿絵から場面を想像しながら読み進めることができる。また、主述がはっきりしていて会話文も多く、声に出して読みながら会話の対比のおもしろさや気持ちの高まりなどを想像し、物語を楽しむこともできる教材である。

(3) 指導について

本単元では、1学習材で表現するパターンから、「A2…3次で表現するパーツを二次で作る」で進めていく。これは、場面ごとの劇をつなげていくことで、徐々に一つのお話の劇を完成させていく喜びや楽しさを味わわせることを大きなねらいとしている。1年生の1学期であることから、1つの学習材を通して、物語の学習の仕方を学ばせる。

一次の導入では、はじめに題名から話の内容を考えたり、教師が演じる「おおきなかぶ」の劇を見て、劇作りのイメージをもったりする。その後「自分たちでつくった劇をミニ音読集会で発表する」という単元のゴールを示すことで、子どもたちが必要感もちながら学習材の読みを行うことができるようにする。また、単元の学習計画を立てることで、見通しをもって学習に臨めるようにする。

二次では、物語を「くじらぐもと出会う子どもたち」「くじらぐもと呼びかけあって飛び乗ることになった子どもたち」「くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたち」「くじらぐもに乗って空を旅する子どもたち」「くじらぐもと別れる子どもたち」の5つの場面に分けて読み取っていく。場面ごとにくじらぐもと子どもたちの行動や会話をしっかりと押さえ、お互いが結び付いていく様子や、心の交流について話し合いたい。また、豊かに読み取らせるために、子どもたちやくじらぐもの気持ちを想像して吹き出しに書く活動を取り入れていく。それぞれが書いた吹き出しを交流していく中から自分の考えを深めたり、友だちの考えの良さを感じ取らせたりしていきたい。自分の考えを発表する際は、たどる力の言葉「なぜなら」を活用させ、根拠も明らかにしながら整理して話させるようにする。また、言いかえる力の言葉「たとえば」を活用することにもチャレンジさせ、「抽象」を「具体」で表現することにも慣れさせていきたい。

三次では、これまで読み深めたことを生かして劇の練習と仕上げを行う。出来上がった劇は、ミニ音読集会でステージ発表する。広い会場で、たくさんのお客さんを前に発表することをイメージさせ、声の大きさや動きに気を付けて練習に取り組みせたい。また、自分たちの劇をビデオに撮り、単元の最初と最後を比較して、場面の様子をより豊かに思い浮かべながら読めるようになったことを実感できるようにしたい。

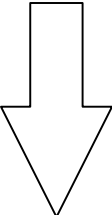
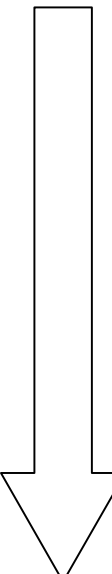
5 単元の指導目標

- 楽しみながらお話を読むことができる。(国語への関心・意欲・態度)
- ◎繰り返しの言葉や文章のリズムを考えながら音読することができる。(読むことア)
- ◎登場人物の行動に気をつけながら、場面の様子を想像を広げて読むことができる。(読むことウ)
- 1年生に担当されている漢字を読むことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ))

6 単元の評価規準

- 物語の読み聞かせを聞いて、音読の楽しさに気付いたり、簡単な劇で自分の思いを表現したりしようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 好きな場面について、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(読む能力ア)
- 自分が面白いと思った場面について、登場人物の行動や会話に着目し、想像を広げて読んでいる。(読む能力ウ)
- 1年生に担当されている漢字を読んでいる。(言語についての知識・理解・技能ウ(イ))

7 単元の指導計画と評価規準（全11時間）

段階と主な学習活動	○学習活動	〔 〕 評価規準 () 評価方法
<p>一次 単元の学習の見通しをもつ。(3時間)</p> 	<p>① 題名を読み、どんな話か予想する。 教師演じる「おおきなかぶ」の劇を見て、劇作りのメーじをもつとともに、劇の発表会をすることを知らせる。 範読を聞き、初発の感想を書く。</p>	<p>〔関〕 場面の様子を想像しながら楽しんで読もうとしている。(発言・態度) 〔読ウ〕 場面の構成要素を考えながら読んでいる。(発言・ワークシート) 〔言ウ〕 1年生に担当されている漢字を読んでいる。(ノート)</p>
	<p>② 音読しながら「いつ、だれが、なにをした」を押さえ、5つの場面に分ける。 自分が好きな場面とその理由を考える。</p>	
	<p>③ 漢字や片仮名の読み方・書き方を知る。 語や文、地の文や会話文などに気をつけて、音読練習をする。</p>	
<p>二次 くじらぐもと子どもたちのやりとりについて話し合ったり、登場人物の様子を動作化したりしながら、想像を広げて読む。(5時間)</p> 	<p>④ 子どもたちが「くじらぐも」と出会ったときの様子を話し合う。 子どもたちの会話や気持ちを想像して吹き出しに書く。</p>	<p>〔関〕 声の大きさや速さなどを工夫して、リズムよく音読しようとしている。(発言・態度) 〔読ウ〕 叙述や挿絵をもとに場面の様子を捉え、想像を広げながら読んでいる。(吹き出し)</p>
	<p>⑤ 子どもたちが「くじらぐも」に飛び乗ることになったときの様子や会話について話し合い、役割読みによって理解する。 動作化して様子や気持ちを想像する。</p>	<p>〔読ア〕 声の大きさや速さなどを工夫して、リズムよく音読している。(音読)</p>
	<p>⑥ 「くじらぐも」に飛び乗ろうとする子どもたちの様子、それを応援する「くじらぐも」の様子について話し合う。 吹き出しを書いたり、動作化したりして、気持ちを想像する。</p>	
	<p>⑦ 「くじらぐも」に乗って旅をする子どもたちの様子や会話について話し合う。 吹き出しを書いたり、動作化したりして、気持ちを想像する。本時</p>	
	<p>⑧ 「くじらぐも」と別れる子どもたちの様子や気持ちについて話し合う。 吹き出しを書いたり、動作化したりして、気持ちを想像する。</p>	
<p>三次 劇の発表会をする。(3時間)</p>	<p>⑨⑩ これまでに書いた吹き出しを生かして、劇に入れるセリフの内容や役割を決める。 劇の練習をする。</p>	<p>〔関〕 想像を広げて物語を楽しもうとしている。(発言・ワークシート) 〔読ア〕 登場人物になりきって、意欲的に簡単な劇をしている。(音読・動作化)</p>
	<p>⑪ ステージで発表する。 ビデオを見て、意見や感想を発表し合う。</p>	<p>〔関〕 発表会に意欲的に参加しようとしている。(観察) 〔読ア〕 登場人物になりきって、意欲的に簡単な劇をしている。(音読・動作化)</p>

8 本時の指導（7 / 11時）

(1) 目標

くじらぐもと子どもたちの様子を想像を広げて読み、読み取ったことを生かして簡単な劇をすることができる。

(2) 授業の仮説

国語科の「読むこと」領域において、次のような手立てを行うならば、論理的に思考し、表現する力を身につけた子どもを育てることができるであろう。

ア 1単位時間の授業内において、論理的思考力を用いて思考したり表現したりする言語活動を設定すること。

(ア) 論理的思考力を用いて思考する場の設定

- ・雲の上から見えるものを発表する場面で、言いかえる力の言葉「たとえば」を使って具体化しながら話す場を設定すること。
- ・音読の工夫を発表する場面で、たどる力の言葉「なぜなら」を使って根拠を明らかにしながら話す場を設定すること。

(イ) 目的や方法を明確にした学び合いの場の設定

読み取ったことを音読で表現する場面で、互いの読み方のよさを発見する場としてペア学習を位置づけること。

(3) 展開

段階	学習活動・学習内容	支援(○)と評価(*)	準備
つかむ 5分	<p>1 前時の学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3の場面の学習を振り返り、話の流れや音読、動きの工夫を確認する。 <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>みんなはくじらぐもにのって、どんなおはなしをしたか、かんがえよう。</p> </div>	<p>○読み方や動きを工夫してきたことを壁面掲示で確認する。</p> <p>○配役は輪番で行う。(くじらぐも、地の文、先生、子どもたち)</p> <p>○空の旅をする場面であることを確認する。</p> <p>○4の場面を好きな場面を選んだ子どもを紹介し、選んだ理由を振り返る。</p>	学習計画 壁面掲示
見通す 35分	<p>3 学習の見通しをもつ</p> <p>(1) 音読や動きの工夫をするための手がかかりを確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○おはなしをよくよむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だれが、どこで、なにをしているのかをみつける。 ・どんなおはなしをしているのか、かんがえる。 ・どこがかわったのかをみつける。 </div> <p>(2) 学習場面を音読する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4の場面を一斉読する。 ・場面の様子を想像しながら読む。 <p>4 くじらぐもに乗っている子どもたちの様子を想像する。</p> <p>(1) 自分の絵をくじらぐもに貼る。</p> <p>(2) 前の場面と変わったところを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くもの上に上がった。 ・下がよく見えるようになった。 ・高い所に来て、気持ちがいい。 	<p>○大きな声で正しく読むようにさせる。</p> <p>○家庭学習で取り組んでいる音読の成果を認めるようにする。</p> <p>○自分の絵をくじらぐもの挿絵に貼り、雲の上の様子を想像させる。</p> <p>○前の場面と比べて、高さや目線が変わったこと、望みがかなって気持ちよくなったことを押さえる。</p>	くじらぐも挿絵 (拡大版)

	<p>(3) 子どもたちはくじらぐもと一緒にどちらの方に旅をしたのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うみのほうへ ・むらのほうへ ・まちのほうへ <p>(4) どこでどんなものが見えるか考える。</p> <p>海では、たとえば…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船 ・港 ・釣りをする人 ・魚 ・泳いでいる人 <p>が見えると思います。</p> <p>村では、たとえば…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池 ・川 ・田んぼ ・家 ・トンネル <p>が見えると思います。</p> <p>町では、たとえば…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビル ・デパート ・スーパー ・電車 ・車 ・駅 <p>が見えると思います。</p> <p>5 子どもたちが話していることを考えて吹き出しに書く。</p> <p>(1) くじらぐもに乗った子どもたちがお話ししていることを考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海が見えてきたぞ。きれいだなあ。 ・自分の家が見える。お家の人に手を振ろう。 ・宮古の町は人がいっぱいだなあ。 <p>(2) 子どもたちの会話を吹き出しに書く。</p> <p>(3) 書いた吹き出しを発表する。 <押さえる気持ち> ・きもちいい ・うれしい ・たのしい</p> <p>6 読み取ったことを音読で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人読み(練習) ・ペアで交流。(感想を述べ合う) ・一人読み(みんなの前で発表) 	<p>○子どもに発言させながら黒板で整理する。</p> <p>○言いかえる力の言葉「たとえば」を使って話すようにさせる。</p> <p>○村と町の違いを確認する。</p> <p>○自分たちの住んでいる茂市や宮古をイメージさせる。</p> <p>○くじらぐもに自分が乗っている気分で考えさせる。</p> <p>○発表し合ったことを参考に考えさせる。</p> <p>○海(青)・村(黄色)・町(ピンク)それぞれの吹き出しを書かせる。(付箋)</p> <p>○3つとも書けた子どもには自由に書ける付箋(緑)を与える。</p> <p>* 叙述や挿絵をもとに場面の様子を捉え、想像を広げながら読んでいる。(吹き出し)</p> <p>○インタビュー形式で今どんな気分なのかを聞き、楽しい気持ちでいっぱいであることを押さえる。</p> <p>○ペア学習の仕方(話形)を示す。</p> <p>○様子が伝わるように、表現の仕方(声の大きさ、速さ、表情、動作)を工夫することを伝える。</p> <p>○発表では、場面の様子が伝わる読み方を</p>	<p>カラー付箋(4色)</p>
--	---	---	------------------

	<p>〈きくひと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～のところはなぜそのようによんだのですか？ ・～のところはなぜそのようにうごいたのですか？ ・～がよかったです。 <p>〈はなすひと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜなら～です。 <p>7 話し合ったことを生かして本時の場面を簡単な劇で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地の文とくじらぐもの役割分担をする。 ・みんなで一緒に読むところを確認する。 ・吹き出しを挿入するところを確認する。 	<p>した子を褒め、全体に広めるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友だちの発表を聞いたら、「なぜそのように書いたのか（読んだのか）」と質問させる。 ○ペア読みでは、友だちのよさを見つけるように促す。 ○答える時はたどる力の言葉「なぜなら」を使って話すようにさせる。 *声の大きさや速さなどを工夫して、リズムよく音読している。（音読） *声の大きさや速さなどを工夫して、リズムよく音読しようとしている。（発言・態度） <p>○地の文とくじらぐもの役割は入れ替えて行う。</p> <p>○吹き出しを一つ以上書いた子どもは、特に気に入ったものから読むように指示する。</p> <p>○それぞれの役になりきって音読劇をするように声掛けをする。</p> <p>○読み方に工夫が見られた子どもには、なぜそう読んだのか理由を聞き、根拠をもたせる。</p>	
<p>ひろげる 5分</p>	<p>8 本時の学習をふりかえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードに書く。 <p>9 次時の学習について確かめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○分かったことや、気付いたこと、感想などをまとめる。 ○4の場面を好きな場面として選んだ子どもに感想を聞く。 ○次時は「くじらぐも」と子どもたちが別れる場面の学習を行うことを確認する。 	<p>ふり 返り カ ー ド</p>

(4) 評価

評価場面	具体的評価規準	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する子どもへの支援
読み取ったことを音読で表現する場面。（発言・態度）	声の大きさや速さなどを工夫して、リズムよく音読しようとしている。（関・意・態）	本時の場面に合った音読の仕方を考え、動きと連動させながら音読しようとしている。	本時の場面に合った音読の仕方を考え、リズムよく音読しようとしている。	会話文や繰り返しの言葉、「げんきいっぱい」などの言葉に着目させ、友だちの音読も参考にしながら読み方を考えさせる。
叙述や挿絵をもとに、吹き出しを書く場面。（吹き出し）	叙述や挿絵をもとに場面の様子を捉え、想像を広げながら読んでいる。（読むことウ）	「うみ」「むら」「まち」3つ以外にも想像を広げ、場面に合った吹き出しを書いている。	子どもたちが空から見たことを想像し、「うみ」「むら」「まち」のどれかの吹き出しに書いている。	挿絵を見ながら、空から「うみ」「むら」「まち」をながめて、見えたものを考えさせる。
読み取ったことを音読で表現する場面。（音読）	声の大きさや速さなどを工夫して、リズムよく音読している。（読むことア）	本時の場面に合った音読の仕方を考え、動きと連動させながら音読している。	本時の場面に合った音読の仕方を考え、リズムよく音読している。	友だちの音読や動きを参考にして取り組ませる。

(5) 板書計画

くじらぐもの挿絵

まち

むら

うみ

空から見える景色

④

くじらぐも なかがわりえこ

④みんなはくじらぐもにのって、どんなおはなしをしたか、かんがえよう。